福教協 教育総務部長交渉 福教組 意見発信

2026.11.10

福岡県教職員組合　組織・教文部長　廣松敏幸

福岡県の5月1日時点における小中学校常勤教員の未配置数は、22年度が218人、23年度が209人、24年度が202人、25年度が198人、そして今年26年度は287人で（小学校149人・前年度比19人増、中学校138人・同70人増）で、過去最悪となったことが明らかになりました。教員未配置問題は、小学校と中学校の双方で深刻化しており、特に中学校では不足数が急増して、学級編成や授業分担など、学校現場に大きなマイナスの影響を及ぼす状況となっています。

こうした中、福岡県の教員からは悲痛な声が上がり、子どもへの影響を心配する意見も多くあがっています。例えば、福岡都市圏の中学校の女性教師は「生徒たち一人一人ときちんと向き合えない。こんな状況のままでは、もう働きたくない」と吐露しています。「勤務校は本年度、3人欠員で始まった。担当する英語科は、非正規教員を1人補充予定だったが、夏前に白紙になった。やむを得ず2クラスを同時に授業しているが、60人を一斉に教えなければならず、通常のやり方ではとても対応できない。」「教員不足は毎年のように続いており、通常の1.5倍の業務を常にこなしている」という声もあがっています。

さらに志願倍率は、2026年度の小学校教員では福岡市が5.5倍、北九州市が3.3倍なのに対し、両政令市以外の福岡県は1.5倍で低い状況となっています。これら含め、深刻な教員不足を改善するため、以下のような意見の数々が各地区から寄せられました。

１つめ、「教員採用において、採用予定数を満たすことができない状況が続いており、現場の教員不足は年々ひどい状況が増してきています。年度当初から定数欠があったり、病休や産休などの代替教員が来なかったりするのは、もはや当たり前です。また、技術科など、簡単に臨時免許が発行され、経験のない授業を任されたという話も多く耳にします。義務教育なのですから、全国どこの学校でも同質の教育を受けられることが当然だと思います。しかし、福岡県においてはそれがきちんと保障されていないのが実態ではないでしょうか？教員を採用しようとしても若い人が定員を満たすほど応募してこないのですから、せめて60才以降の教員に対する待遇を改善し、教員不足に対応して欲しいと考えています。」

続いて２つめ、業務量を削減することが、“定年まで安心して働くことができる職場”につながり、教職員の未配置を解消することにつながっていくと考えます。今、若年退職者の数も増えています。20代の教員も“このままの調子で働いていて、定年まで働く自信がない”とこぼしています。今、60才以降の仕事内容・働き方をもっと精選していくことが、20代の教員たちが定年まで安心して働き続けることにつながると思います。

そして３つめ、福岡県の教員不足は全国でもワーストクラスにあると聞きます。このことが学校現場の教師に負担になっていること、子どもたちの学ぶ機会を奪っていることに大きな危機感を待つべきです。県や事務所、市町村や校長から、それぞれ全力で探しているという発言を聴きますが、このまま一生懸命探していくだけでは、根本的な解決への見通しはたちません。一刻も早く、１人でも多く教員を配置・不足を解消し、多忙化している学校現場を改善する具体的、実効的な手を打っていただきたいです。

最後に４つめです。「60 代であっても、学級担任、学年の中心リード役だけでなく、病休者の学級の授業掛け持ち、部活顧問など、フルタイムで定年前と変わらない働き方をしていることがほとんどです。それどころか、経験の浅い方のフォローに徹するなど、精神的にも疲れることも多くあります。いま、教員不足で多くの仕事を 60 代が担っている現実を考え、賃金の改善、仕事内容の厳選を早急にお願いします。20 代と同じ働き方をしていては倒れます。再任用者は、定年延長者より 100 万円も低く、また、初任者や講師より低い賃金です。また、もうやめようという声も聞こえます。つまり教員不足が進むことになります。60 代の働き方改善こそが若年層の太い支えになります。そして、それは全職員にとって働きやすい、働き甲斐のある職場になることと思います。教職員未配置が大きな課題である現在において、福岡県の教育の未来は、教員をだいじにすることからしか始まらないと思います。」再任用者がいきいきと安心して、今後も学校現場で働き続けていくことができるよう、何よりも処遇改善を、月例給だけでなく一時金の支給月数の改善をつよく求めます。

教諭、講師、再任用の先生たちすべての教職員にとって、少しでも長く働ける環境づくりや処遇改善を図ることが、今のこの福岡県の学校の教員不足や多忙化を解消する現実的な選択肢であると考えます。

県独自でできるとりくみの推進とともに、国への働きかけをどうぞよろしくお願いいたします。